

TADAIMA RYUSOU

ただいま、りゅうそう。

vol.2 / 2025年6月号



OKAERI

おかえりなさい



ただいま、おかえり。



目次 contents

竜爪園に春が来た	3
役員インタビュー	4
RYUSOUと生きる人 #3	6
RYUSOUと生きる人 #4	8
イベントレポート	10
RYUSOU ANIMAL FAMILY	11
チーム紹介（機能訓練）	12
RYUSOU やさしい KITCHEN	13
ボランティア紹介	14
編集後記	15

竜爪山とホタル

夏の訪れをつげる風物詩「ホタル」。年々数は少なくなっていますが、竜爪園の周りでも自生のホタルを鑑賞することが出来ます。北沼上ことも園さんを百メートル程南へ下った沢のところに夜八時過ぎた頃に幻想的な光が現れるようです。以前には地域の方々主催の「長尾川の蛍と遊ぶ会」という会が六月上旬に開催され、長尾川周辺でも鑑賞することが出来、園のご入居者も楽しんで頂くことができました。

ホタルはお尻の部分に発光器があり、ここにある物質が呼吸などにより酸素と結びつくことで化学反応が起き光ります。様々な説もあるようですがホタルが光るのは求愛行動とも言われています。産卵時期になると、ホタルは子孫を残そうとオスは光りながらメスを探します。その為光っているホタルの大部分はオスのようです。

川の近くで見られることが多いのは餌となる貝（カワニナ）が水辺にいるためです。五月末〜六月中旬が時期のようですが、皆様も機会があればぜひ幻想的なホタルを鑑賞してみませんか。

温もりの場所

竜爪園に春が来た

ふわりふわり。風が吹くと桜の花びらが舞い上がる。竜爪園のすぐそばを流れる長尾川では、春にはカワセミが青い光のように飛び交い、初夏には蛍が水面に星を映す。この自然に囲まれた場所で、新しい物語が始まるようにしていた。

桜満開の四月上旬、竜爪園には新たな息吹が吹き込んだ。長年この場所を守り育ててきた中野前理事長から、次の時代を担う四人の役員が揃い、新しい船出の日を迎えたのだ。施設を導くために心を決めた四人に心の中を伺った。

中野前理事長と立ち上げ当初から園を見守ってきた人、スタッフとして参入し竜爪園の魅力に自ら気づき役員として動いてきた人、そして中野理事長から次期理事長としてバトンを受け取った人。それぞれの立場は違えど、竜爪園が向かうこれからの未来に対して、皆が同じ方向を見つめていた。彼らが口を揃えて大切にしているのは、創設当初から変わらない「竜爪園ケア」の理念だ。

「利用者さんはお客様ではありません。自分の両親だったたり、おばあちゃんだったり想像しながらケアしていく。それが中野前理事長から言われ続けたことです」と立ち上げ当初からスタッフとしていて活動した中村さんが語ると、全員がうなずいた。

働きやすい環境を求めて竜爪園にたどりついた瀧浪さんも続ける。「美味しい食事を出すのも、家族なんだから当たり前じゃないですか。私たちが美味しいと思った食事を出すから、利用者さんも美味しく食べられるし、そうやって元気で過ごせるってことですよね」そこには特別な配慮というよりも、家族として共に過ごす当たり前の日常がある。それこそが竜爪園の真髄なのだ。

竜爪園が大切にしているのは、内側だけではない。地域の困り事を自らの足で集め続けた福貴さんは「地域の人が困った時には『竜爪園』と思ってもらえる場所になることが大切」と語る。

「そのために、積極的に外に出て情報収集をしています。お年寄りだけでなく、子どもたちも困っている環境や課題がたくさんあります。それはソーシャルワーカーという専門職員を園内に置いて、外に通って活動しているからこそ見えてくるものなんです」

この取り組みは介護施設としては珍しいという。地域全体を見据えた福祉のあり方を模索する竜爪園の先進的な姿勢がうかがえる。



お花がいっぱい。この季節は目に鮮やかです。

いつ来ても、園内には花が咲いている。ご利用者が外の景色を見るだけで心から楽しめる。そして、ご利用者の家族も、ここに来ることで、ホッとしてもらえるように…。園内には様々なところに「想い」がある。



数十年変わらない「竜爪園ケア」を次の時代に確実に繋ぐ。

「海外の方々の力を借りることは、多文化交流として利用者さんにも良い刺激になります」と山内理事長は説明する。竜爪園は外国人労働者の雇用にも積極的に挑戦している。

「言葉の壁はあっても、心と心は通じ合う。外国人スタッフの温かな笑顔に、利用者さんたちも自然と笑顔で応える。そこに生まれるのは国境を越えた家族のような絆だ。今、日本中が介護事業の現場の人手不足の現状を発信している。困った人を助けるためには、私たちが変わらなければならない。」

「三十年の歴史の中で、外国人と本格的に仕事をするという発想は今までなかったと思う。山内理事長がこの園に来てからはその考え方も変わってきましたね。」

中から外から繋いでいく

「利用者さんを第一に考えるのは当たり前ですが、そこで働くスタッフもファーストに考えることを大切にしています」と中村さんは語る。職員の休憩スペースをカフェのように居心地よく整え、カフェにも負けないレベルのコーヒーマシンを設置するなど、働く環境にも細やかな配慮がなされている。「スタッフが元気でなければ、利用者さんに良いケアはできません。だからこそ、働く環境も大切にしているんです。」

「介護の世界は法律が変わるたびに大きく影響を受ける。それは社会福祉法人なので当たり前のことです。だからこそ、私たちの軸をしっかり持ち、地域への還元を大切にしていきたい」と山内理事長は力強く語る。

時代が変わるからこそ

時代は変わっていく。福祉事業は日々変化し、時に厳しい現実に直面することもあるだろう。しかし、中野前理事長の想いを受け継ぎ、その根本にある「家族のような温かさ」は決して変わらない。

「三十年、中野前理事長の想いで動いてきました。受け継いだ私たち四人の役員は、次の三十年を創造していくことが使命です」と山内理事長は穏やかな春の空を見上げながら語った。

長尾川のせせらぎが聞こえる竜爪園。ここに新しい春が訪れ、また新たな物語が紡がれていく。竜爪山と長尾川に見守られながら、家族のような絆で結ばれた人々の笑顔の営みは、これからも続いていく。

(インタビュー/アートマネージャー 久米ゆき)



桜に囲まれた春の竜爪園の散歩道。桜が咲く時期は短い、桜の花びらが散ると散歩道がピンク色に染まる。

MEET NEW RYUSOU

竜爪園ケアの精神を承継しながら時代の変化に対応していきます！

理事長 山内章泰

(出身：静岡県静岡市／在籍：2020～)

天心会が100年企業になれたらいいな。と思っています。それは、ご利用者の皆さんが竜爪園で穏やかに過ごし、職員は誇りをもって生き生きと働き、様々な活動を通じて地元から愛され、時代の変化に対応し続けることができた結果できることだと思うからです。そんな法人づくりのお手伝いをしていきます。



● 自分の足で探し出す。本当に必要な人に、必要なことが届くように！

園長／地域支援部長 福貴隆

(出身：福岡県田川郡／在籍：2003～)

スクールソーシャルワーカーとして小中学校にも廻っています。西奈南、西奈、北沼上の学区で介護、子育て、就労、生活等々でのお困りごとがあれば一緒に考えていきますのでお気軽にご相談ください！



温故知新

副園長／施設部長 瀧浪千恵

(出身：静岡県浜松市／在籍：2000～)

25年という年月が過ぎ振り返るとたくさんの経験をさせて頂くことができました。地域の皆様のお力添えや、入居者様、ご家族様、職員の皆から支えて頂いてことに感謝し、前理事長から学んだ竜爪園ケアを守り、成長していけるよう頑張りたいと思います。



● 思いやりの心を大切に

副園長／在宅部長 山内章泰

(出身：静岡県島田市／在籍：1993～)

竜爪園に勤務してから自分の中でずっと意識している言葉です。竜爪園に関わっている方達のいろんな理由や立場を考えながら、やりがいや安心できる環境、居場所作りを目指しています。



【天心会のロゴマークについて】

「円」と「木」をモチーフにしたロゴマークです。周りの「円」はご縁として地域、利用者様、竜爪園の繋がりを表し、「木」は今までの歴史と未来の成長のシンボルとして表現しています。

父と歩んだ遊歩道

居宅介護支援センター 竜爪園 剣持 勝

5月の半ばの夕刻、新緑の香りを感じながら、自宅近くにある遊歩道を父とふたりで「散歩」をしていた。父は靴を地面にすりながら私の前を歩き続ける。背中に夕陽を浴び、まるで自分の影を追いかけるようにふらふらと歩いている。私には父の後ろ姿が歪んで見えていた。

「その散歩」の3年前、父は認知症と診断された。母とふたり暮らし。定年退職後、父は自転車で図書館へ行くのが日課であった。ところがある日、父は何台も自転車を失すようになっていた。その年の夏、隣町の花火大会へひとりで出かけたまま帰らなかった。夜通し歩き疲れた父は道路の路肩に座っているところを翌日、警察に保護されていた。

「その散歩」の2年前、父はデイサービスを利用していた。「デイサービスを嫌がる父さんを見たくない！」と利用を反対していた母。しかし、母の心配をよそに父は馴染んでいた。その時の父は何度も散歩を繰り返してGPSは必需品であった。自家用車は処分して運転免許証は返納していた。

「その散歩」の半年前、帰宅の遅い父を家族で探すことが多くなった。散歩中に転倒して救急搬送や、迷子になり警察に世話になること多く、散歩には家族が付き合うようになった。いつしか散歩の欲求が強くなり、散歩を咎める家族へ声を荒げるようになった。家族の顔を忘れ、着替えや洗身方法がわからない程に認知症は進行した。洗身介助する私に手を挙げてきたので、私は父を叩いてしまった。すると父は床に跪き、「情けないよ〜」と泣きわめいた。以前は決して感情を表に出さなかった父。よほど自分に不甲斐なく、情けなく、悔しかったのだと私は感じた。

「その散歩」の2週間前、母はデイサービスのない日も父とバスで出かけていたが、乗車中の父は落ち着かないことがあり外出が難しくなってきた。とうとう母は膝を悪くした。ある日、母が目を離した際に父はひとりで出かけてしまった。なかなか帰宅しないので探しに行くと、他人の車を無断で運転して工事現場で立ち往生している父がいた。つまり父は窃盗と無免許運転をしてしまった。数日後、膝を悪くして畳に座ることのできない母は涙を流しながら父を施設へ入所させる決断をした。

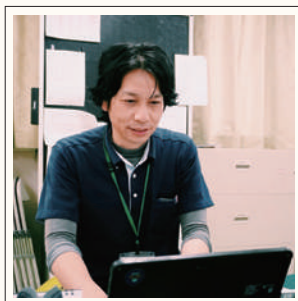
「その散歩」の翌日は施設入所する日であった。つまり「その散歩」とは、父と自宅で過ごす最後の日であった。きっと忘れてしまうだろうと思いつつ散歩途中の公園のベンチで父に施設入所の話をした。「母さんは膝を悪くして・・・俺も仕事があって・・・だから父さんには・・・」と言葉の最後がどうしても声が小さくなる。すると父は「母さんはそんなに悪いのか？大丈夫なのか？」と母を労わるように言ってくれた。父のその優しさを知りながら、明日には父を施設へ連れて行かなければならない・・・私は目に涙を溜めながら先に行く父の後ろ姿を見つめて一緒に歩いていた。

「その散歩」から9か月後、父は77歳の生涯を終えた。

そして今、あの時のように遊歩道で父のことを思い返す。父は寡黙で真面目な人であった。自分の気持ちを伝えるのが苦手で不器用な人であった。私はそのような父に頼りなさを感じ、距離を置いて深い話をしなかった。しかし、私が家庭を持ち感じたことは、私たちが何不自由なく過ごせたのは、家族のために地道に働いてくれた父のおかげである。父が認知症になった3年間は、父も家族も辛く、大変なことがたくさんあった。でも父は地域の人や施設の利用者、職員に明るく振舞っていた。それは今まで見たことのない明るい父の姿で、私はとても嬉しかった。父と一緒に歩いた遊歩道。おたがいの人生に深く付き合い、歩むことができた3年間であった。

竜爪家族へ
Q&A

好きな時間：寝ること。動画を見ながら寝落ち。休日の昼寝。
オススメの店：藤枝のどんこつラーメン店「〇元」です。
どんこつ特有の臭みはなくスープにコクがあり、早朝でも胃もたれをしません。
宝くじが当たったら？：家族でおいしいものを食べに行きたい。



父と歩いたあの時間は、
忘れられない家族の時間。

Ryusou family Kenmochi Masaru

RYUSOU と生きる人 #03



ありがとうございますの言葉に、支えられて。

今度は私が恩返し。

地域に恩返し

従来型特養 4階 介護職員 賀藤 真冬

竜爪園で勤務して2年が過ぎました。4月で3年目を迎えます。昨年5月には園の新茶会が開かれ、その際に企画運営担当の一員としてイベントに関わらせて頂きました。お茶に合うお菓子を考えたり、皆さんの前で話すエピソードを考えたりする時間は、こちらもワクワクしていました。決めたお菓子のなかから「何が良いですか」とご利用者に選んで頂く際、「これが食べられるの、迷っちゃうねー美味しそう」と皆さん目を輝かせながら選ばれていました。ご利用者の中には、お茶農家をされていた方も多く、場を盛り上げるために茶娘の衣装を着ていた私の姿を見て、「懐かしいね、ちょうどこの頃は忙しかったよ」と、とても喜んでくださいました。そのほかにも、普段、歌体操に参加しないご利用者が茶摘みの歌を楽しそうに歌う、といった新たな一面をみることができたり、新茶は甘みがあるためか、いつもよりお茶をおかわりしてくださる姿をみたりでき、とても嬉しかったことを覚えています。

また、イベント担当の他にも、力を入れていたことがあります。それは、私の所属している部署—4階での取り組みについてです。4階では、ご利用者が脱水にならないような取り組みをおこなっています。高齢者の方は、実際には水分が必要な状態であっても、喉の渇きを感じにくくなるという点や、「喉が渇いた」ということを伝えることが難しい方もいらっしゃいます。脱水にならないためには、介護職員が表情や小さな変化に気付き、手が進まない方にも、お声掛けをして摂取を勧めるということが必要であると考え、意識的に取り組みました。今後も支援を継続していきたいと思っています。最近では、ネパールから2名の介護職員が仲間に加わり、ご利用者・職員共にとても良い刺激をもたらしてくれており、フロア全体がさらに明るい雰囲気になったと感じています。

日々、ご利用者の生活のお手伝いをさせて頂くなかで、「ありがとう」や「若くてパワーがあっというね」、「気を付けて帰ってね」などの温かいお言葉に、何度も救われてきました。私自身、瀬名地域で育ち、地域の方に支えられて今があると思っています。「地域の幸せづくり」の一員となり、今度は私が支え、恩返しをしていきたいです。



好きなこと：ネットフリックスで韓国ドラマをみること・映画鑑賞
おすすめのお店：ららぽーと沼津の映画館・LUSH
宝くじが当たったら？：家族旅行

Ryusou family Katou Mafuyu

#04

RYUSOU と生きる人

RYUSOU♥ANIMAL FAMILY

my family no.1

今回は、竜爪園ファミリー白石さん（事務）と一緒に暮らしているアニマル家族をご紹介します！



投げて～



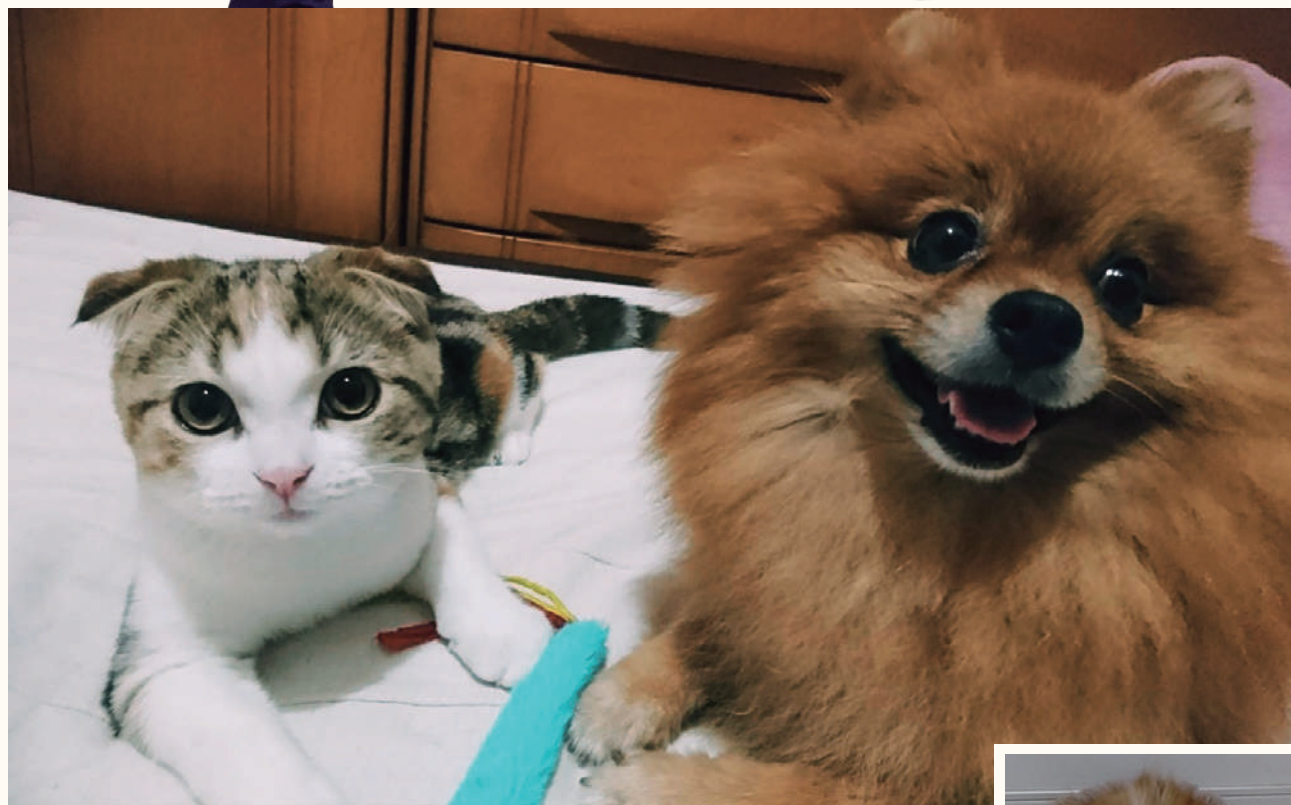
黒くてまんまるな目と小さな耳、茶色と白のグラデーションになっているポンポンのようなしっぽがチャームポイント！



あくり明利ちゃん

ポメラニアン 13歳

職員の（RYUSOU FAMILY）の日々の疲れを癒してくれる家族をご紹介します！愛らしい姿に、皆さんもぜひ癒されてください！

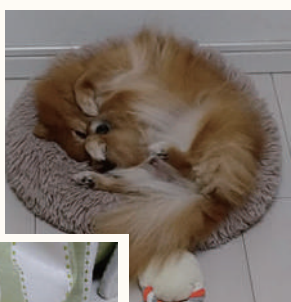
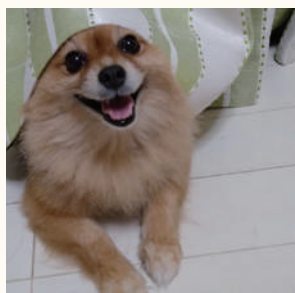


あくりちゃんと、猫の咲紗（ささ）ちゃん。

毎日のおもちゃ投げが、家族のコミュニケーション

私がお子供の頃から「スピッツ」という犬種に憧れがありまして、いつか飼ってみたいと思っていたのですが、実際に飼うとなると体も大きくなるし、お世話も大変なことから、スピッツをそのまま小さくしたような「白いポメラニアン」にしようと思い、ブリーダーさんのところに初めて行った日に、当時10匹程いた中から白いポメラニアンの子犬より、定番カラー（オレンジ）のあくりがとても可愛くて即決してしまいました。

毎日おもちゃをくわえて持ってきては『投げてー』と言ってきます。あくりからすると飼い主がずっと椅子に座って暇そうに見えるのか比較的こちらが食事中か外せないテレビドラマに集中したい時にくる事が多く、つい雑な対応になりがちであとからいつも反省しています。あくりが幼犬の頃、トイレのしつけで成功した時に、オーバーに褒めながら、おやつをあげていたのですが、あれから12年経った今でもトイレに行った後は喜びながらおやつをもらいにくるというルーティンになっています。



EPISODES

6月よりご家族の面会制限がなくなりました！気軽に越してください！

イベントレポート REPORT

今年度も竜爪園をよろしくお願いいたします！



竜爪園家族会総会・食事会



4/11（金）32回目の開園記念日に合わせ午前には家族会総会を行いました。役員の方の挨拶の後、事業報告や今年度の計画など審議され承認されました。その後、従来型4Fが「ネパールから来た職員と一緒に働くなかで感じたこと」を、地域福祉課が「竜爪園の社会福祉法人としての地域との関わり方」について研究発表が行われ、ご家族からもたくさんの質問をして頂きました。最後は令和6年度の写真をまとめたスライドショーをご視聴頂き、竜爪園で過ごされている日常の様子を見て頂きました。総会後はフロアに分かれての食事会でご利用者もご家族の皆様と囲む食事は大変喜ばれている様子でした。

一緒に食べるといつもより美味しいね！

おはあちゃん、みんなに会えて嬉しいわ



経営方針発表会

4/11（金）夕方からは経営方針発表会。各部署より趣向を凝らしたプレゼンテーション発表が行われ令和7年度の事業計画を本格的にスタートさせる運びとなりました。昨年度流行した「はい、よろこんで」のタンバリンダンス、ラシーナの健康運動指導士によるエアロビクスダンス、ネパール語に通訳しながらの「イメージダイブ」などなどみなさん忙しい業務の中、時間を作り練習した成果を発揮されていました。また15Pに記載してある永年勤続表彰やグッジョブサックスカード年間表彰など多くの表彰も行われました。



勤続10年ありがとうございます！

令和7年度経営方針発表

ありがとうございます！これからもよろしくお願いいたします！



美味しいは生きる力

温かいものは温かく、冷たいものは冷たく。

三月に中森栄養士のおやつバイキングを実施しました。
 ・手作りマドレーヌ ・チョコプリン
 ・いちご ・甘酒 ・ムース（よもぎ味）
 （マドレーヌ、チョコプリンにはお好みで桜ホイップを添えて！）
 春らしい5種類のおやつからお好みのものを2〜3個選択して、手作りおやつを楽しんでいただきました。普段のおやつにはない手作りマドレーヌやいちごなどが人気でした。おやつバイキングを通してご利用者の笑顔がみられて良かったです。ご利用者の笑顔が仕事のやりがいになっています。

どれもこれも
美味しそう！



目の前で
仕上げます♪



美味しそうね〜！

自宅で挑戦！

材料（3人分）

- ・とりひき肉 100g
- ・木綿豆腐（パック）100g
- ・パン粉 30g
- ・たまねぎ（みじん切り）1/3個
- ・サラダ油 大さじ1/2
- ・干しひじき（水で戻しておく） 2g
- ・溶き卵 1/3個
- ・こしょう 少々
- ・食塩 一つまみ
- ・だし汁 大さじ2
- ・サラダ油 大さじ1
- ・しょう油 大さじ1
- ・上白糖 小さじ1
- ・本みりん 大さじ1
- ・料理酒 大さじ2/3

家族みんなが
大好きな味だね！



good!

厨房人気メニュー 鶏つくね照り焼き

《作り方》

- ①玉ねぎのみじん切りをサラダ油で炒めて冷ましておく
- ②木綿豆腐はザルにあげ、よくほぐし、水気を切っておく
- ③材料Aをよく練り混ぜ、鶏つくねのタネを作る
- ④タネを6等分にして小判型に形成する
- ⑤フライパンにサラダ油をひいて、中火にかけ熱くなったら鶏つくねを入れる。2分程で焼き色がついたら裏返し、弱火にして蓋をして3分ほど蒸し焼きにして火を通す
- ⑥火を止め、鶏つくねを取り出し、残った油をペーパーで拭き取りBの調味料を入れて煮立たせる
- ⑦フライパンに鶏つくねを戻してタレを煮からめる
- ⑧鶏つくねを器に盛りつける（付け合わせはお好みで）

《竜爪園ポイント》

*豆腐入りの鶏つくねはふんわりと柔らかく焼きあがり、甘辛味のタレはご飯によく合います。
 *付け合わせは人参・インゲンのグラッセやブロッコリー、トマト、アスパラガスなど・・・季節の野菜を取り入れてお好みで！



RYUSOU TEAM WORK

焦らずゆっくり
トレーニングしましょうね



Team 機能訓練指導員 Functional Training Instructor

竜爪園の「機能訓練指導員」は、常勤4名と非常勤1名の計5名が働いており、それぞれ異なる資格を持っています。
 内訳は、理学療法士1名、柔道整復師2名、あんまマッサージ指圧師2名がおり、個々の力を活かしながら業務を行っています。



Q 機能訓練指導員って？

「機能訓練指導員」という名前は総称であり、リハビリに従事する国家資格者のことです。仕事の内容は、日常生活の課題に応じた機能訓練計画を立案し、長期入所、短期入所、デイサービスで関節可動域訓練、歩行訓練、筋力トレーニング、マッサージ、リハビリ体操などを行っています。

その中でも、現場職員と連携した日常生活動作訓練を主として行っています。ベッドから車椅子へ立位・移乗動作、トイレに座る端座位保持動作、入浴時に浴槽へのまたぎ動作など実際の介護に介入し、ご利用者の保有能力を活かしながら介助を行っています。

また「ワンケア・ワンリハビリ・ワンギフト」というご利用者のQOL向上を目指す短時間でのリハビリアプローチを行っています。内容は、歩行訓練（筋力、心肺機能維持）
 上肢・下肢の屈伸運動（関節拘縮予防、筋緊張緩和）
 ストレッチ（廃用性症候群予防）になります。

Q ポジショニングって？

竜爪園では、ベッド上でのポジショニング、車椅子上でのシーティングを委員会メンバーと共同で行っています。

ポジショニングとはベッド上で、ご利用者にピロー（まくら）とクッションを当てることで、快適な生活（安楽な姿勢、褥瘡予防）安全なベッド環境（関節拘縮予防、筋緊張緩和）を提供しています。

シーティングとは車椅子上で、ご利用者に適した車椅子クッションを選定し、姿勢を維持するためにクッションを当て、座面・背面シートを調整することで、食事の摂りやすい姿勢、深い呼吸ができる姿勢、前後左右に傾きにくい姿勢を提供しています。「寝かせきり」「座らせきり」にはしないケアを多職種連携しながら目指していきます。



恒友会女性部 支える人たち



竜爪園では、多くのボランティアの方々に来ていただいています。開園当時から来てくださっているボランティア団体の方や、シニアサポーターに登録されている方など様々なボランティアに支えられています。ご入居者の衣類等に名札を付けてくださる方、シューズ交換をおこなってくださる方、車いすを掃除してくれる方、こどもの居場所活動の食事づくりなど様々なボランティアを行っていただいています。またこどもの居場所活動では多くの学生サポーターが活躍し、園とともに地域のことにも関わっていただいています。

special thanks

ご寄付者様、ボランティア様のご紹介

恒友会様/すみれ会様/にしなおりがみの会様/海野好子様/杉山敏子様/矢口美広様/西沢悦子様/小野田清子様/ JA 静岡市瀬名女性部様/常葉大学・静岡福祉大学・静岡県立大学等の大学生高校生の皆様 ありがとうございます。

Q どんな活動をしていますか？

▼竜爪園でのボランティア活動のみおこなっています。活動内容は、ご利用者のベッドのシーツ交換をおこなっています。

Q 何人で活動されていますか？

▼四名で活動しています。中には、子どもの居場所活動や市の事業である、S型デイサービスでボランティア活動を掛け持ちしているメンバーもいます。

Q 活動のきっかけは？

▼竜爪園では、約十九年前からボランティア活動を始めました。恒友会女性部としては三十年くらい活動しており、花火やお祭りの際に屋台をやったりなど、様々な活動をおこなってきました。

▼竜爪園の職員から声をかけられたことがきっかけで始めました。昔は食事介助や窓ふき、屋上への散歩といった余暇活動もおこなっていました。園に『一番に何をしてほしいですか?』と確認したところ、今のシーツ交換ボランティアとなりました。

Q 活動のやりがいとは？

▼喜んでくれるのがうれしいです。ご利用者に気持ちよく過ごしてもらいたい、と思っ、十二月はできるだけ年の瀬になるようにしています。

▼職員さんが「助かります」と言ってくれるとやってよかった、と感じます。



一緒に活躍してくれる仲間を募集しています！

編集後記

今月の編集室より

創刊号に続き、「TADAIMA RYUSOU」vol.2の発行となりました。今この文章を書いているのは、丁度創刊号が完成した頃であり、企画から数か月かけ、冊子になったものを手にした時には、とても感慨深い気持ちになりました。また、創刊号を手にした職員からは「いいものが出来ましたね」等と声をかけてもらえることがあり、企画委員の一員として、とても嬉しく思うとともに、今後より楽しく読んでいただけるような誌面をつくっていききたいという気持ちが強まったように思います。皆様に楽しみにして頂けるよう、色々な特集を考えておりますので、今後より楽しく願っています。

広報企画委員 角鹿 亜紀

永年勤続者表彰

勤続20年

鈴木裕次(介護職員) 中村えみ(介護職員) 小長井麻帆(栄養士) 江本和美(調理員) 佐野みや子(調理員) 森れい子(調理員) 寺尾光弘(介助員) 中條恵二(介助員) 伊藤翔(介護課長) 築地裕介(相談課長)

勤続10年

石垣大(介護職員) 宮城嶋彩(介護職員) 荻野有香里(介護職員) 山本麻衣(介護職員) 菊池正明(介護職員) 福田吉恵(看護師) 松永静香(相談員) 杉山千代美(看護師) 南條伊希子(生活支援員)

勤続5年

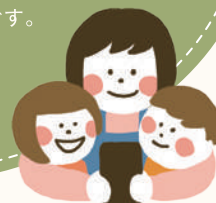
古畑真啓(介護職員) 望月道代(調理員) 高木良子(清掃員) 中川勝美(介助員) 岡田郁子(介護職員) 渡辺則子(生活支援員) 高井優(主任介護支援専門員) 白井恵威子(事務員) 浅賀律子(清掃員)

グッジョブ&サンクスカード表彰者

グッジョブ&サンクスカードとは、職員同士がお互いの良いところに気付き、カードに書くことで形に残して、みんなに紹介し、認め合い褒め合う制度です。

年間個人最多提出者 石垣大(介護職員)
年間個人最多対象者 望月彩乃(歯科衛生士)

いつもありがとうございます！



楽しんでくれている利用者様へ

